

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2024-162076
(P2024-162076A)

(43)公開日 令和6年11月21日(2024.11.21)

(51)国際特許分類

F I

テーマコード (参考)

B 6 5 D 5/42 (2006.01) B 6 5 D 5/42 F 3 E 0 6 0

B 6 5 D 5/66 (2006.01) B 6 5 D 5/66 3 0 1 E

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全13頁)

(21)出願番号	特願2023-77259(P2023-77259)	(71)出願人	000122298
(22)出願日	令和5年5月9日(2023.5.9)		王子ホールディングス株式会社
			東京都中央区銀座4丁目7番5号
		(74)代理人	110001807
			弁理士法人磯野国際特許商標事務所
		(72)発明者	中山 勝博
			東京都中央区銀座五丁目12番8号 王
			子コンテナ株式会社内
		(72)発明者	加藤 大雅
			東京都中央区銀座五丁目12番8号 王
			子コンテナ株式会社内
		(72)発明者	松山 まりや
			東京都中央区銀座五丁目12番8号 王
			子コンテナ株式会社内
		F ターム (参考)	3E060 AA03 AB05 BA03 BB02
			最終頁に続く

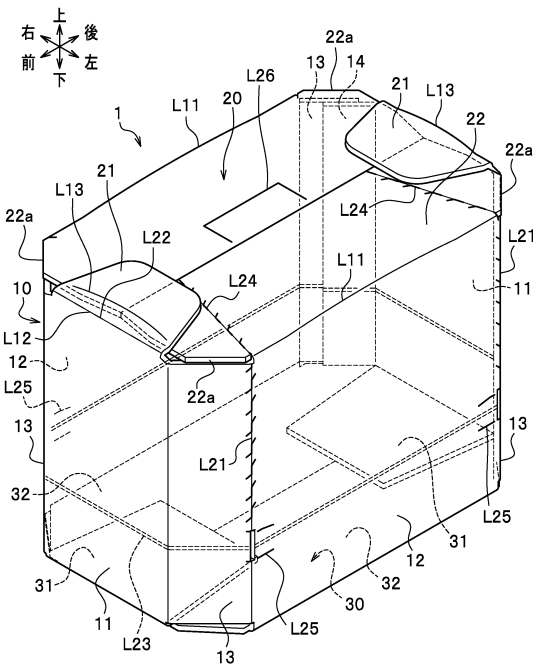
(54)【発明の名称】 包装箱

(57)【要約】

【課題】蓋部の側部フラップを側壁に対して折り曲げたときに、側部フラップが胴部の内部に入り込むのを防ぐことができ、蓋部を閉じ易くなる包装箱を提供する。

【解決手段】包装箱1であって、前後の端壁11、11および左右の側壁12、12を有する胴部10と、胴部10の上側の開口部に設けられた上蓋部20と、を備えている。上蓋部20は、側壁12の上縁部に第一折れ線L11を介して連設された側部フラップ22を有し、第一折れ線L11は、側部フラップ22の先端側に向けて突出するように曲げられている。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前後の端壁および左右の側壁を有する筒状の胴部と、
前記胴部の上下方向の開口部に設けられた蓋部と、を備え、
前記蓋部は、
前記側壁の上下方向の縁部に第一折れ線を介して連設された側部フラップを有し、
前記第一折れ線は、前記側部フラップの先端側に向けて突出するように曲げられている
ことを特徴とする包装箱。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の包装箱であって、
前記第一折れ線全体が弧状に湾曲していることを特徴とする包装箱。

10

【請求項 3】

前後の端壁および左右の側壁を有する筒状の胴部と、
前記胴部の上側の開口部に設けられた上蓋部と、
前記胴部の下側の開口部に設けられた下蓋部と、を備え、
前記上蓋部は、
前記側壁の上縁部に第一折れ線を介して連設された側部フラップと、
前記端壁の上縁部に第二折れ線を介して連設された端部フラップと、を有し、
前記端部フラップの基端部には、左右方向に延びている第三折れ線が形成され、
前記第三折れ線は、前記端部フラップの先端側に向けて突出するように曲げられており
、
前記下蓋部において、前記端部フラップの直下となる領域には、窪み部が形成されてい
ることを特徴とする包装箱。

20

【請求項 4】

前後の端壁および左右の側壁を有する筒状の胴部と、
前記胴部の上下の開口部に設けられた上下の蓋部と、を備え、
前記胴部は、左右方向の長さが前後方向の長さよりも小さく形成されており、
前記端壁と前記両側壁との間には、上下方向に延びている左右の第一切断誘導線が形成
され、
前記両第一切断誘導線の上端部の間には、左右方向に延びている第二切断誘導線が形成
され、
前記両第一切断誘導線の下端部の間には、左右方向に延びている第三切断誘導線が形成
されており、
前記両第一切断誘導線、前記第二切断誘導線および前記第三切断誘導線を切り開いて、
前記胴部の端壁側に開口部を形成可能であることを特徴とする包装箱。

30

【請求項 5】

請求項 4 に記載の包装箱であって、
前記端壁と前記側壁との間に傾斜壁が形成されており、
前記第一切断誘導線は、前記傾斜壁と前記側壁との間に形成されていることを特徴とす
る包装箱。

40

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、包装箱に関する。

【背景技術】

【0002】

段ボール製の包装箱の蓋部としては、両側壁にそれぞれ連設された左右の側部フラップ
と、両端壁にそれぞれ連設された前後の端部フラップと、を備え、両側部フラップの外面
に両端部フラップが重ねられているものがある（例えば、特許文献 1 および特許文献 2 参
照）。

50

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特許第7021830号公報

【特許文献2】実用新案登録第3202167号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

前記した従来の包装箱の蓋部では、直線状の折れ線（罫線）を介して側部フラップが側壁に連設されている。この構成では、側壁に対して側部フラップを折り曲げたときに、側部フラップが包装箱の内部に入り込み易いため、側部フラップの外面に端部フラップをホットメルト等の接着剤によって接着し難いという問題がある。

10

【0005】

本発明は、前記した問題を解決し、蓋部の側部フラップを側壁に対して折り曲げたときに、側部フラップが胴部の内部に入り込むのを防ぐことができ、蓋部を閉じ易くなる包装箱を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

前記課題を解決するため、本発明は、包装箱であって、前後の端壁および左右の側壁を有する筒状の胴部と、前記胴部の上下方向の開口部に設けられた蓋部と、を備えている。前記蓋部は、前記側壁の上下方向の縁部に第一折れ線を介して連設された側部フラップを有し、前記第一折れ線は、前記側部フラップの先端側に向けて突出するように曲げられている。

20

【0007】

本発明の包装箱では、側壁と側部フラップとの間の第一折れ線が、側部フラップの先端側に向けて突出するように曲げられている。このようにすると、側壁に対して側部フラップを折り曲げたときに、側部フラップの復元力が大きくなる。つまり、側部フラップが外側に向けて浮き上がろうとする。これにより、側部フラップの外面が端部フラップの内面に押し付けられる。この結果、側部フラップの外面に端部フラップを接着剤によって接着し易くなり、蓋部を確実に閉じることができる。

30

【0008】

前記した包装箱において、前記第一折れ線全体を弧状に湾曲させた場合には、側壁に対して側部フラップを綺麗に折り曲げつつ、側部フラップの復元力を大きくできる。

【0009】

また、本発明の包装箱の他の構成としては、包装箱であって、前後の端壁および左右の側壁を有する筒状の胴部と、前記胴部の上側の開口部に設けられた上蓋部と、前記胴部の下側の開口部に設けられた下蓋部と、を備えている。前記上蓋部は、前記側壁の上縁部に第一折れ線を介して連設された側部フラップと、前記端壁の上縁部に第二折れ線を介して連設された端部フラップと、を有し、前記側部フラップの外面に前記端部フラップが重ねられている。前記端部フラップの基端部には、左右方向に延びている第三折れ線が形成され、前記第三折れ線は、前記端部フラップの先端側に向けて突出するように曲げられている。前記下蓋部において、前記端部フラップの直下となる領域には、窪み部が形成されている。

40

【0010】

この構成では、端壁に対して端部フラップを折り曲げたときに、端部フラップの基端部が第二折れ線および第三折れ線において二段階に折れ曲がる。これにより、端部フラップを側部フラップの厚みを越えて側部フラップの外面に重ね易くなる。

また、前記した構成では、端部フラップの基端部に形成された第三折れ線が、端部フラップの先端側に向けて突出するように曲げられている。そのため、端壁に対して端部フラップを折り曲げたときに、端部フラップの復元力が大きくなり、端部フラップが上蓋部の

50

外面に盛り上がる。

これにより、二つの包装箱を上下に重ねたときに、下側の包装箱の上蓋部の端部フラップを、上側の包装箱の下蓋部の窪み部に入り込ませて、下側の包装箱に対して上側の包装箱がずれるのを防ぐことができ、包装箱を安定して積み重ねることができる。

【0011】

また、本発明の包装箱の他の構成としては、包装箱であって、前後の端壁および左右の側壁を有する筒状の胴部と、前記胴部の上下の開口部に設けられた上下の蓋部と、を備え、前記胴部は、左右方向の長さが前後方向の長さよりも小さく形成されている。前記端壁と前記両側壁との間には、上下方向に延びている左右の第一切断誘導線が形成され、前記両第一切断誘導線の上端部の間には、左右方向に延びている第二切断誘導線が形成され、前記両第一切断誘導線の下端部の間には、左右方向に延びている第三切断誘導線が形成されている。前記両第一切断誘導線、前記第二切断誘導線および前記第三切断誘導線を切り開いて、前記胴部の端壁側に開口部を形成可能である。

10

【0012】

前記した包装箱は、胴部の左右方向の長さが前後方向の長さよりも小さいため、端壁を陳列スペースの正面に向けて配置することで、包装箱の陳列スペースを確保し易い。そして、両第一切断誘導線、第二切断誘導線および第三切断誘導線を切り開くことで、胴部の端壁側に開口部を形成できる。

このように、前記した包装箱では、陳列スペースを確保し易くしつつ、陳列スペースの正面に向いた開口部を形成して、内容物を露出させるとともに、内容物を取り出すことができる。

20

【0013】

前記した包装箱において、前記端壁と前記側壁との間に傾斜壁が形成されている場合には、前記第一切断誘導線を前記傾斜壁と前記側壁との間に形成することで、胴部から端壁および傾斜壁を切り取って、胴部を大きく開口させることができる。

【発明の効果】

【0014】

本発明の包装箱では、側壁に対して側部フラップを折り曲げたときに、側部フラップの外面が端部フラップの内面に押し付けられるため、側部フラップの外面に端部フラップを接着し易くなり、蓋部を確実に閉じることができる。

30

【図面の簡単な説明】

【0015】

【図1】本発明の実施形態に係る包装箱を前方左上から見た斜視図である。

【図2】本発明の実施形態に係る包装箱のブランクシートを示した図である。

【図3】本発明の実施形態に係る包装箱を示した正面図である。

【図4】本発明の実施形態に係る包装箱を示した側面図である。

【図5】本発明の実施形態に係る包装箱を示した底面図である。

【図6】本発明の実施形態に係る包装箱において、端壁側に開口部を形成した状態の斜視図である。

【図7】本発明の実施形態に係る包装箱において、側壁側に開口部を形成した状態の斜視図である。

40

【図8】本発明の実施形態に係る包装箱において、胴部を上下に分割した状態の斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0016】

本発明の実施形態について、適宜図面を参照しながら詳細に説明する。

以下の説明において、前後左右方向とは、本実施形態の包装箱を説明する上で便宜上設定したものであり、包装箱の構成や使用状態を限定するものではない。

【0017】

本実施形態の包装箱1は、図1に示すように、筒状に形成された胴部10と、胴部10

50

の上側の開口部に設けられた上蓋部 20 と、胴部 10 の下側の開口部に設けられた下蓋部 30 と、を備えている。

【0018】

本実施形態の包装箱 1 は、図 2 に示すように、段ボール製のシートを切り抜いたブランクシート S を各折れ線において山折りまたは谷折りすることで形成される。図 2 に示すブランクシート S は内面側が見えるように配置されている。

ブランクシート S の折れ線は、ブランクシート S の表面を線状に押し込んで形成された罫線（押罫）である。なお、罫線に断続的な切れ込みを形成してもよい。このようにすると、折れ線においてブランクシート S を折り曲げ易くなる。

また、シートの表面のみを切断したハーフカットの切れ込みやシートを貫通した切れ込みを断続させて線状に形成することで折れ線を構成してもよい。

【0019】

胴部 10 は、図 1 に示すように、前後一对の端壁 11, 11 と、左右一对の側壁 12, 12 と、隣り合う端壁 11 と側壁 12 との間に形成された前後左右の傾斜壁 13 と、を備えている。

側壁 12 は端壁 11 に対して垂直に配置され、傾斜壁 13 は端壁 11 および側壁 12 に対して傾斜している。本実施形態の胴部 10 は、平面視で八角形の筒状に形成されている（図 5 参照）。本実施形態の胴部 10 は、左右方向の長さが前後方向の長さよりも小さく形成されている。

【0020】

端壁 11 および側壁 12 は、四角形に形成されている。本実施形態では、端壁 11 の左右方向の幅が側壁 12 の前後方向の幅がよりも小さく形成されている。また、傾斜壁 13 は、上下方向に細長い長方形に形成されている。

【0021】

前側の端壁 11 の左縁部には、折れ線を介して左前の傾斜壁 13 が連設されている。

左前の傾斜壁 13 の左縁部（後縁部）には、折れ線を介して左側の側壁 12 が連設され、左側の側壁 12 の後縁部には、折れ線を介して左後の傾斜壁 13 が連設されている。

また、左後の傾斜壁 13 の右縁部（後縁部）には、折れ線を介して後側の端壁 11 が連設され、後側の端壁 11 の右縁部には、折れ線を介して接合片 14 が連設されている。

【0022】

前側の端壁 11 の右縁部には、折れ線を介して右前の傾斜壁 13 が連設され、右前の傾斜壁 13 の右縁部（後縁部）には、折れ線を介して右側の側壁 12 が連設されている。

また、右側の側壁 12 の後縁部には、折れ線を介して右後の傾斜壁 13 が連設されている。右後の傾斜壁 13 の内面には、接合片 14 が接合されている。

ブランクシート S（図 2 参照）を各折れ線で折り曲げつつ、接合片 14 を右後の傾斜壁 13 の内面に接合すると、前後の端壁 11, 11、左右の側壁 12, 12 および四つの傾斜壁 13 によって、平面視で八角形の筒状の胴部 10 が形成される（図 5 参照）。

【0023】

左前の傾斜壁 13 と側壁 12 の前縁部との間の折れ線上には、第一切断誘導線 L21 が形成されている。本実施形態では、第一切断誘導線 L21 は、傾斜壁 13 と側壁 12 との間の折れ線の上側の約 2/3 の領域に形成されている。

第一切断誘導線 L21 は、切れ込みを断続的に形成したミシン目状の線である。なお、切れ込みの形状や長さは限定されるものではない。

同様に、図 4 に示すように、側壁 12 の後縁部と左後の傾斜壁 13 との間の折れ線上にも、第一切断誘導線 L21 が形成されている。さらに、図 3 に示すように、前側の端壁 11 と左前の傾斜壁 13 との折れ線上にも、第一切断誘導線 L21 が形成されている。

【0024】

胴部 10 には、図 1 に示すように、第三切断誘導線 L23 が全周に亘って形成されている。本実施形態の第三切断誘導線 L23 は、胴部 10 の内面に貼り付けたカットテープによって構成されている。

10

20

30

40

50

第三切断誘導線 L 2 3 のカッターテープを外側に引くことで、カッターテープによって端壁 1 1、側壁 1 2 および傾斜壁 1 3 を直線状に切断できる。そして、胴部 1 0 の第三切断誘導線 L 2 3 を全て切り開くことで、図 8 に示すように、胴部 1 0 を上下に切り離すことができる。

【0025】

第三切断誘導線 L 2 3 は、各第一切断誘導線 L 2 1 の下端部と同じ高さに形成されている。したがって、図 3 に示すように、胴部 1 0 の前部の左右の第一切断誘導線 L 2 1、L 2 1 の下端部の間には、第三切断誘導線 L 2 3 が左右方向に延びている。また、図 4 に示すように、胴部 1 0 の左側面の前後の第一切断誘導線 L 2 1、L 2 1 の下端部の間には、第三切断誘導線 L 2 3 が左右方向に延びている。

10

【0026】

左側の側壁 1 2 において、第三切断誘導線 L 2 3 の前後の端部に対応する位置には、スリットによって区画された側面開封開始部 L 2 5、L 2 5 が形成されている。また、図 2 に示すように、右側の側壁 1 2 において、第三切断誘導線 L 2 3 の前端部に対応する位置にも、側面開封開始部 L 2 5 が形成されている。

【0027】

下蓋部 3 0 は、図 1 に示すように、前後の端壁 1 1、1 1 の下縁部にそれぞれ連設された前後一対の内フラップ 3 1、3 1 と、左右の側壁 1 2、1 2 の下縁部にそれぞれ連設された左右一対の外フラップ 3 2、3 2 と、を備えている。

本実施形態では、図 5 に示すように、両内フラップ 3 1、3 1 の下面に両外フラップ 3 2、3 2 が重ねられている。内フラップ 3 1 の外面と外フラップ 3 2 の内面とは、ホットメルト等の接着剤によって接着されている。また、両外フラップ 3 2、3 2 の先端部は突き合わされている。このようにして、胴部 1 0 の下側の開口部が下蓋部 3 0 によって閉塞されている。

20

【0028】

両外フラップ 3 2、3 2 の前後の端部には、前後の窪み部 3 3、3 3 がそれぞれ形成されている。窪み部 3 3 は、両外フラップ 3 2、3 2 の突き合わせ部の端部を、前後方向の中央部に向けて窪ませた部位である。窪み部 3 3 内には、内フラップ 3 1 が露出している。すなわち、包装箱 1 の底面には、左右の窪み部 3 3、3 3 によって平面視台形状の凹部が形成されている。

30

【0029】

窪み部 3 3 は、後記する上蓋部 2 0 の端部フラップ 2 1 の直下に配置されており（図 1 参照）、二つの包装箱 1、1 を上下に積み重ねたときに、上側の包装箱 1 の下蓋部 3 0 の窪み部 3 3 に、下側の包装箱 1 の上蓋部 2 0 の端部フラップ 2 1 が入り込むように構成されている。窪み部 3 3 は、端部フラップ 2 1 の形状に合わせて形成されており、端部フラップ 2 1 よりも僅かに大きく形成されている。

【0030】

上蓋部 2 0 は、図 1 に示すように、左右の側壁 1 2、1 2 の上縁部にそれぞれ連設された左右一対の側部フラップ 2 2、2 2 と、前後の端壁 1 1、1 1 の上縁部にそれぞれ連設された前後一対の端部フラップ 2 1、2 1 と、を備えている。

40

両側部フラップ 2 2、2 2 の先端部を突き合わせるとともに、両端部フラップ 2 1、2 1 を両側部フラップ 2 2、2 2 の外面に重ねることで、胴部 1 0 の上側の開口部が上蓋部 2 0 によって閉塞されている。

【0031】

側部フラップ 2 2 には、傾斜壁 1 3 の上縁部に重なる傾斜縁部 2 2 a が形成されている。傾斜縁部 2 2 a は、傾斜壁 1 3 の外面よりも外側に突出しており、胴部 1 0 の上側の開口部の角部が確実に閉じられている。

【0032】

左側の側部フラップ 2 2 には、左右方向に延びている前後の第四切断誘導線 L 2 4、L 2 4 が形成されている。第四切断誘導線 L 2 4 は、側部フラップ 2 2 の基端縁部から先端

50

縁部に亘って形成されている。第四切断誘導線 L 2 4 の基端部は、第一切断誘導線 L 2 1 の上端部に接続されている。前後の第四切断誘導線 L 2 4 , L 2 4 は、前後方向に間隔を空けて配置されており、その間隔は側部フラップ 2 2 の基端側から先端側に向かうに連れて小さくなっている。

右側の側部フラップ 2 2 の先端部において、左側の側部フラップ 2 2 の両第四切断誘導線 L 2 4 , L 2 4 の先端部の間に対応する位置には、スリットによって区画された天面開封開始部 L 2 6 が形成されている。

【 0 0 3 3 】

側部フラップ 2 2 は、側壁 1 2 の上縁部に第一折れ線 L 1 1 を介して連設されており、第一折れ線 L 1 1 において側壁 1 2 に対して内側に折り曲げられている。

10

第一折れ線 L 1 1 は、図 2 に示すように、側壁 1 2 と側部フラップ 2 2 との境界に形成されている。第一折れ線 L 1 1 は、ブランクシート S の内面を線状に押し込んで形成された罫線（押罫）である。側壁 1 2 と側部フラップ 2 2 との境界に形成される折れ線（罫線）は、一本の第一折れ線 L 1 1 のみであり、第一折れ線 L 1 1 以外の折れ線は存在していない。

【 0 0 3 4 】

第一折れ線 L 1 1 は、側部フラップ 2 2 の先端側に向けて突出するように曲げられている。本実施形態では、第一折れ線 L 1 1 全体が弧状に湾曲している。第一折れ線 L 1 1 の頂点は、側壁 1 2 の前後方向の中央部に配置されている。

本実施形態では、側壁 1 2 の前後の側縁部の上端部を結んだ直線状の仮想線に対して、第一折れ線 L 1 1 の頂点が 4 mm 程度間隔を空けて配置されるように、第一折れ線 L 1 1 の曲率が設定されている。

20

【 0 0 3 5 】

第一折れ線 L 1 1 において側部フラップ 2 2 を側壁 1 2 に対して折り曲げると、図 4 に示すように、側壁 1 2 の上縁部（第一折れ線 L 1 1）が上方に向けて突出するように弧状に曲がった状態となる。

【 0 0 3 6 】

端部フラップ 2 1 は、図 1 に示すように、端壁 1 1 の上縁部に第二折れ線 L 1 2 を介して連設されている。

図 2 に示すように、第二折れ線 L 1 2 は、端壁 1 1 と端部フラップ 2 1 との境界に形成されている。第二折れ線 L 1 2 は、ブランクシート S の内面を線状に押し込んで形成された罫線（押罫）である。第二折れ線 L 1 2 は、端壁 1 1 の左右方向に直線状に形成されている。

30

【 0 0 3 7 】

端部フラップ 2 1 の基端部には、図 1 に示すように、左右方向に延びている第三折れ線 L 1 3 が形成されている。第三折れ線 L 1 3 は、図 2 に示すブランクシート S の内面を線状に押し込んで形成された罫線（押罫）である。

【 0 0 3 8 】

第三折れ線 L 1 3 は、端部フラップ 2 1 の先端側に向けて突出するように曲げられている。本実施形態では、第三折れ線 L 1 3 全体が弧状に湾曲している。第三折れ線 L 1 3 の頂点は、端壁 1 1 の左右方向の中央部に配置されている。また、第三折れ線 L 1 3 の左右の端部は、端壁 1 1 の上縁部（第二折れ線 L 1 2）の左右の端部に向けて延びている。

40

なお、本実施形態では、第二折れ線 L 1 2 と第三折れ線 L 1 3 の頂点とが 12 mm 程度間隔を空けて配置されるように、第三折れ線 L 1 3 の曲率が設定されている。

【 0 0 3 9 】

端部フラップ 2 1 を端壁 1 1 に対して折り曲げると、図 4 に示すように、端部フラップ 2 1 の基端部は、第二折れ線 L 1 2 および第三折れ線 L 1 3 において二段階に折れ曲がる。そして、端部フラップ 2 1 は、側部フラップ 2 2 の厚みを越えて、側部フラップ 2 2 の外面（上面）に重なる。

側部フラップ 2 2 の外面と端部フラップ 2 1 の内面とは、ホットメルト等の接着剤によ

50

って接着されている。

【0040】

図1に示すように、前側の端部フラップ21と前側の端壁11との間の第二折れ線L12上には第二切断誘導線L22が形成されている。このように、左右の第一切断誘導線L21, L21の上端部の間には、左右方向に延びている第二切断誘導線L22が形成されている。

第二切断誘導線L22は、切れ込みを断続的に形成したミシン目状の線である。なお、切れ込みの形状や長さは限定されるものではない。

【0041】

本実施形態の包装箱1における第一の開封形態では、図6に示すように、胴部10の前部において、左右の第一切断誘導線L21, L21、第二切断誘導線L22および第三切断誘導線L23を切り開き、端壁11および左右の傾斜壁13, 13の上部を切り取る。これにより、胴部10の前部（前側の端壁11側）に開口部を形成できる。

10

【0042】

本実施形態の包装箱1における第二の開封形態では、図7に示すように、左側の側壁12の第三切断誘導線L23を切り開いた後に、左側の側部フラップ22の両第四切断誘導線L24, L24の間の領域を先端側から引き上げて、両第四切断誘導線L24, L24を切り開く。さらに、両第四切断誘導線L24, L24に続いて、左側の側壁12の両第一切断誘導線L21, L21を切り開く。このようにして、左側の側部フラップ22の中央部および左側の側壁12の上部を切り取ることで、胴部10の側部（左側の側壁12側）に開口部を形成できる。

20

【0043】

本実施形態の包装箱1における第三の開封形態では、図8に示すように、胴部10の第三切断誘導線L23を全周に亘って切り開くことで、胴部10を上下に分離させ、包装箱1の上部を下部から切り取って開封する。このように包装箱1を開封すると、包装箱1の下部はトレイとなるため、内容物をトレイに収容した状態で陳列できる。

【0044】

以上のような包装箱1では、図2に示すように、側壁12と側部フラップ22との間の第一折れ線L11が、側部フラップ22の先端側に向けて突出するように弧状に曲げられている。このようにすると、図1に示すように、側壁12に対して側部フラップ22を綺麗に折り曲げつつ、側部フラップ22の復元力が大きくなる。

30

これにより、側部フラップ22は外側に向けて浮き上がろうとするため、側部フラップ22が胴部10の内部に入り込むのを防ぐことができる。

そして、本実施形態の包装箱1では、側部フラップ22の外表面が端部フラップ21の内面に押し付けられる。この結果、側部フラップ22の外表面に端部フラップ21を接着剤によって接着し易くなり、上蓋部20を確実に閉じることができる。

また、側部フラップ22が胴部10の内部に入り込むのを防ぐことにより、側部フラップ22に重ねた端部フラップ21も上蓋部20の外表面から盛り上がる。これにより、図5に示すように、二つの包装箱1, 1を上下に重ねたときに、下側の包装箱1の上蓋部20の端部フラップ21を、上側の包装箱1の下蓋部30の窪み部33に入り込ませて、下側の包装箱1に対して上側の包装箱1がずれるのを防ぐことができ、包装箱1を安定して積み重ねることができる。

40

【0045】

また、本実施形態の包装箱1では、端壁11に対して端部フラップ21を折り曲げたときに、端部フラップ21の基端部が第二折れ線L12および第三折れ線L13において二段階に折れ曲がる。これにより、端部フラップ21を側部フラップ22の厚みを越えて側部フラップ22の外表面に重ね易くなる。

【0046】

また、本実施形態の包装箱1では、端部フラップ21の基端部に形成された第三折れ線L13が、端部フラップ21の先端側に向けて突出するように弧状に曲げられている。こ

50

のようにすると、端壁 11 に対して端部フラップ 21 を折り曲げたときに、端部フラップ 21 の復元力が大きくなり、端部フラップ 21 が上蓋部 20 の外面から盛り上がる。

これにより、図 5 に示すように、二つの包装箱 1, 1 を上下に重ねたときに、下側の包装箱 1 の上蓋部 20 の端部フラップ 21 を、上側の包装箱 1 の下蓋部 30 の窪み部 33 に入り込ませて、下側の包装箱 1 に対して上側の包装箱 1 がずれるのを防ぐことができ、包装箱 1 を安定して積み重ねることができる。

【0047】

本実施形態の包装箱 1 は、図 1 に示すように、胴部 10 の左右方向の長さが前後方向の長さよりも小さいため、端壁 11 を陳列スペースの正面に向けて配置することで、包装箱 1 の陳列スペースを確保し易い。

そして、図 6 に示すように、胴部 10 の前部の両第一切断誘導線 L21, L21、第二切断誘導線 L22 および第三切断誘導線 L23 を切り開いて、胴部 10 から端壁 11 および左右の傾斜壁 13, 13 を切り取ることで、胴部 10 の前部に開口部を形成できる。

したがって、本実施形態の包装箱 1 では、陳列スペースを確保し易くしつつ、陳列スペースの正面に向いた開口部を大きく形成して、内容物を露出させるとともに、内容物を取り出し易くなる。

【0048】

以上、本発明の実施形態について説明したが、本発明は前記実施形態に限定されることなく、その趣旨を逸脱しない範囲で適宜に変更が可能である。

例えば、図 1 に示す本実施形態の包装箱 1 における上蓋部 20 の構成を、下蓋部 30 に適用してもよい。

【0049】

本実施形態の包装箱 1 では、上蓋部 20 に前後の端部フラップ 21, 21 が設けられているが、上蓋部 20 を左右の側部フラップ 22, 22 のみによって構成し、両側部フラップ 22, 22 の先端部を粘着テープによって固定してもよい。

【0050】

本実施形態の包装箱 1 の胴部 10 は、八角形に形成されているが、胴部 10 の形状は限定されるものではない。例えば、二つの傾斜壁 13, 13 を一方の対角となる位置のみに配置して胴部 10 を六角形に形成したり、傾斜壁 13 を設けることなく、胴部 10 を四角形に形成したりしてもよい。

【0051】

本実施形態の包装箱 1 には、複数の切断誘導線が形成されており、複数の形態で開封できるように構成されているが、切断誘導線の位置や本数は限定されるものではなく、内容物の大きさや形状に応じて適宜に設定できる。例えば、第一切断誘導線を端壁 11 と傾斜壁 13 との間に形成してもよい。更には、包装箱 1 に開封用の切断誘導線を形成しなくてもよい。

【0052】

本実施形態の第三切断誘導線 L23 は、カットテープによって構成されているが、第三切断誘導線 L23 を、ミシン目やジッパーによって構成してもよい。

本実施形態の第一切断誘導線 L21 および第二切断誘導線 L22 は、折れ線（罫線）上に形成されているが、罫線を形成することなく、ミシン目である第一切断誘導線 L21 および第二切断誘導線 L22 が折れ線を兼ねるように構成してもよい。

【0053】

本実施形態の包装箱 1 は、段ボール製であるが、各種公知の板紙によって包装箱を形成できる。

【符号の説明】

【0054】

- 1 包装箱
- 10 胴部
- 11 端壁

10

20

30

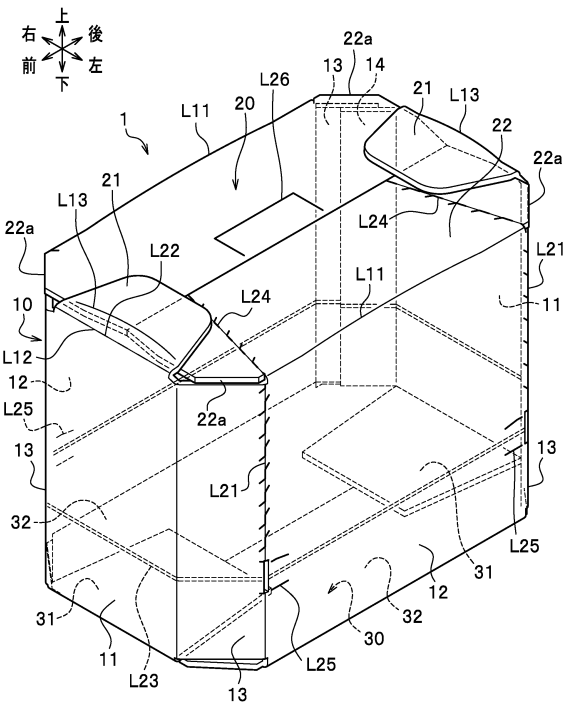
40

50

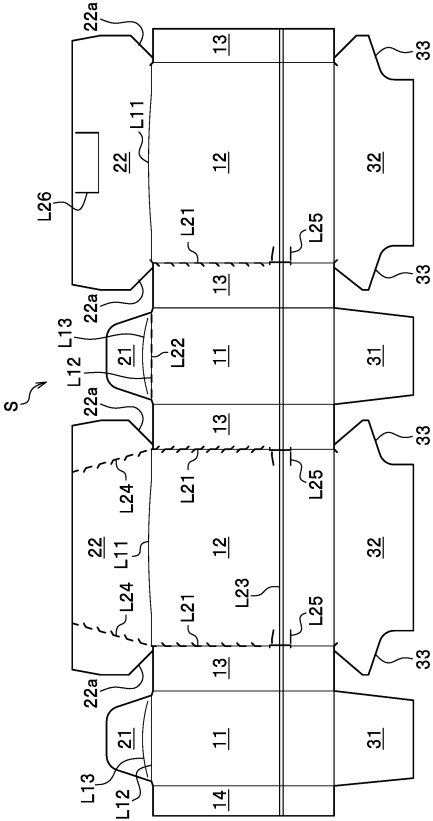
- 1 2 側壁
- 1 3 傾斜壁
- 1 4 接合片
- 2 0 上蓋部
- 2 1 端部フラップ
- 2 2 側部フラップ
- 2 2 a 傾斜縁部
- 3 0 下蓋部
- 3 1 内フラップ
- 3 2 外フラップ
- 3 3 窪み部
- L 1 1 第一折れ線
- L 1 2 第二折れ線
- L 1 3 第三折れ線
- L 2 1 第一切断誘導線
- L 2 2 第二切断誘導線
- L 2 3 第三切断誘導線
- L 2 4 第四切断誘導線
- L 2 5 側面開封開始部
- L 2 6 天面開封開始部
- S ブランクシート

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

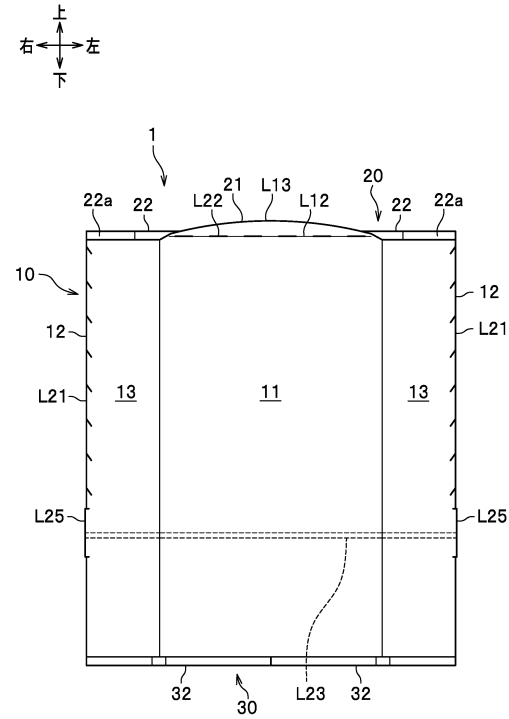
20

30

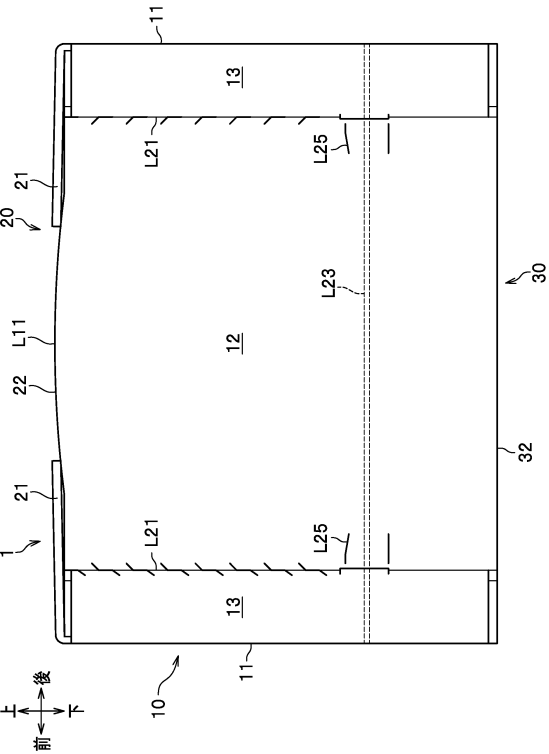
40

50

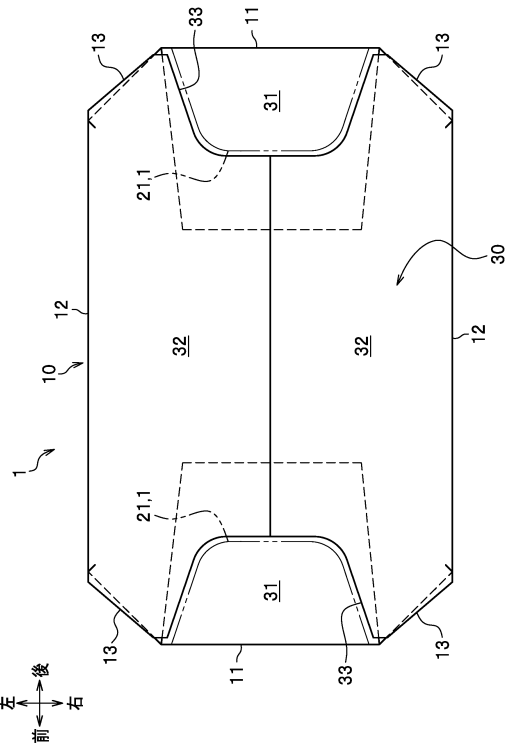
【図 3】



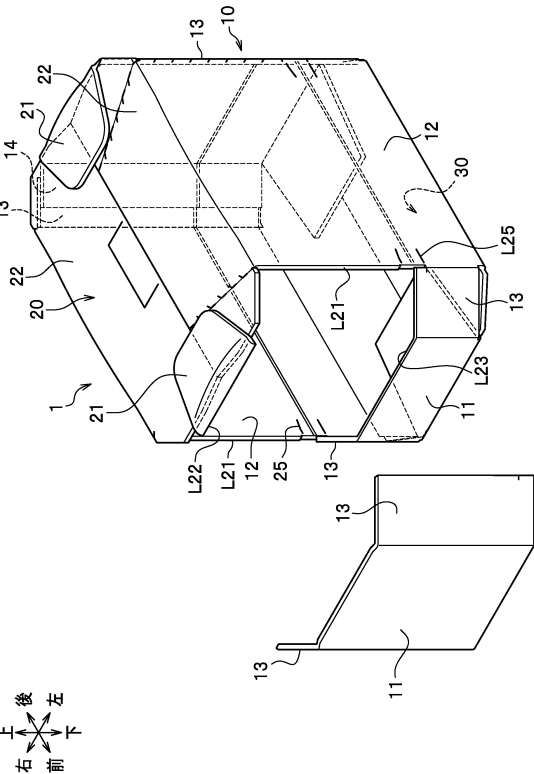
【図 4】



【図 5】



【図 6】



10

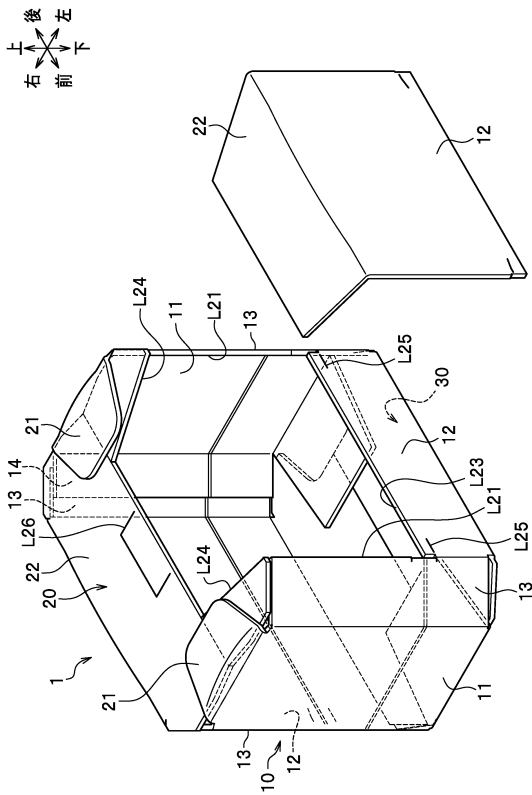
20

30

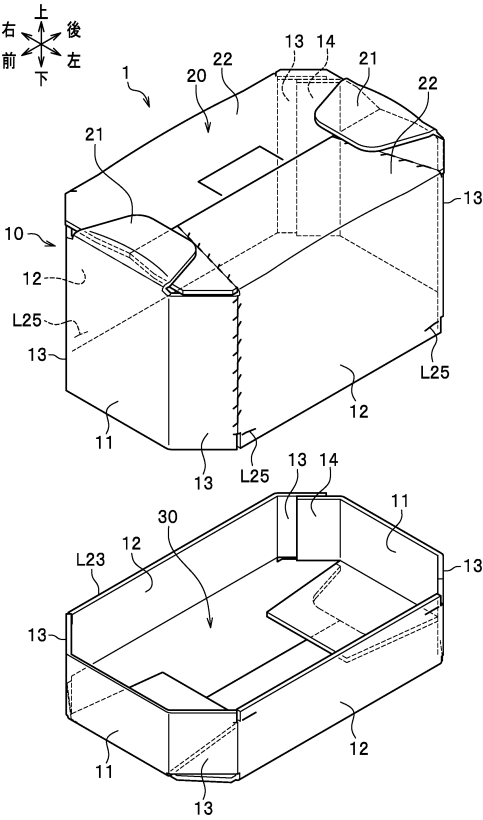
40

50

【図 7】



【図 8】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

F ターム (参考) BB03 BC02 CB02 CB12 CB16 CE07 CE09 CE16 CE18 CE19
CE28 CF05 CG10 CG12 CG13 DA08 DA13 DA25